



葛野デンガネット新聞

和3年度 行責任者 登記ネット

春来る、保全管理作業始まる

令和三年度の春到来。
例年どおり水路の整備、ポンプ施設の点検など、當農組合、デンガネットの作業が始まりました。



田植えに備えた井堰設置作業は四月二四日(土)に実施しました。又、同日午後からは、区民の皆さんと、圃場幹線道路整備を行いました。

また、五月一日(日)、排水路の泥上げ、排水路門扉の作動確認や潤滑油補充など、役員で実施しました。

あわせて、ほ場周辺のゴミ拾いなど環境整備を実施しました。



- ① 配管・バルブの状況を点検しながら、ポンプ操作順序の確認をしました。
 - ② 遊休地現状確認と除草作業。
 - ③ 井堰の設置作業。



右から鶴 龍郎さんと仲間のみなさんです。
植え付けには「かぶと山こども園」の園児も参加しました

またこの時に、
株式会社シーズ・
ファームという社
名の会社を設立し
て農業経営に取り
組むともうかがい
ました。

シーズ・ファームのシーズには
種 : seed
海 : sea
仲間たち : 's
の三つの意味が込められている
とのことです。

今年は、新型コロナウイルス対策のため、それぞれの作業は、日程をずらして実施しました。井堰作業の後日、デンガネット役員で、施設点検とポンプ設備の試運転を行いました。ポンプの状態は良好で、稼働も順調でした。その後は、遊休地確認と周辺の草刈り作業のため、砂丘地の大浜大地、畠地へ向かい、遊休地の現状確認と草刈り作業等を行いました。組合員による定期的な耕耘作業が奏功し、遊休地に雑草等はなく、管理は良好です。

令和2年第3号、4号でご紹
介した鶴龍郎さんが、さらに葛
野区内で約八〇アールを規模
拡大されたとのことで、写真は
その農場で仲間のみなさんと、
サツマイモ苗の植
てているところです。
農地の貸借につ
京都府農地管理機構
農用地借用希望者



大きな災害もなく実りの秋を迎えるといいものです



好天に恵まれた五月連休以降、激しい降雨もなく、新型コロナ禍の中、各耕作者は順調に田植えを始められていきました。また、田植え後の害獣対策として、既に設置している電気柵についても通電状況等を確認し、五月中旬には、圃場幹線道路整備作業後に、電気柵の下草刈りと除草剤散布をテングネット役員で実施しています。

農水省の、農作業環境の安全対策などについての有識者検討会の中間とりまとめによると、農業では年間約三〇〇件の死亡事故が発生し、就業人口一〇万人当たりの死者数も増加傾向にあるとのことで、農業機械の安全対策強化を検討すべきとされています。

葛野区内でも、昨年は自走式草刈り機の圃場転落、今年は田植え機の転倒と事故が続きました。事故の大小に関係なく、慎重と安全を心掛け、作業手順などを確認し、事故防止に充分な注意をしないかなければなりませんね。



運転操作されていた当事者は「決して乱暴でゾンザイな操作はしていないけど、アッと思ったら、もうどうにも」とのこでした。



冒険リ隊のみなさんと 登校前の集合

農業機械の安全な操作を

葛野水田営農組合、葛野デンガネット発足から、長きにわたって組合員・会員として活動に協力していただいた安川光夫さんが、今年1月27日に急逝されてから早くも夏を迎えるようとしています。4月の新学期を迎える直前に、かぶと山小学校の上野校長先生（当時）から「葛野の子供たちが、長い間登校の見守りをしていただいた安川さんへ、お礼とお別れの気持ちを伝えたいと手紙を書きましたので、ご家族の皆様へお渡しいただけませんか」と連絡があり、その手紙を預かりました。校長先生に了解いただいたうえでその手紙を読みましたが、書いている文字と一人一人の顔が重なって鼻の奥がツンときて「泣くッ」となり、慌てて封筒にしました。手紙は親戚の方から光夫さんのお姉さんに届けていただき、お姉さんから子供たちへお礼の言葉をいただきました。4月から1年生3人、3年生1人の4人が増えて11人となり、みんな元気に登下校しているとのことです。天国の安川光夫さんへもあの手紙は届いていることでしょう。あらためて光夫さんのご冥福をお祈りします。